

「 岐阜県発日本一、世界一 ～ 7月 ～ 」

スポーツ健康課 スポーツ振興担当

大会、競技会名 (主催者名)	成 績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
第90回日本陸上競技選手権大会 男子1500m	優 勝 3 41 37	H18.7.1	小林 史和 (NTN)	中京商高 (現中京高)卒	前日の予選は、2組1位で通過した。決勝はゴール前で混戦となったが小林が辛くも逃げ切った。0.5秒内に上位5人がひしめく激戦であった。 (兵庫県：神戸ユニバー記念競技場)
女子200m	準優勝 24 34	H18.7.2	成瀬 美紀 (日女体大)	関商工高卒	予選2組1位、準決勝1組3位で通過した成瀬は、決勝でも快走し、準優勝を勝ち取った。 (同上)
女子400mハードル	3 位 57 68	H18.7.2	青木 沙弥佳 (福島大)	県岐阜商高卒	予選、準決勝と余力を残した走りを見せた。決勝はゆっくりスタートし、徐々に追いつけたが、先頭にわずかに届かず準優勝となった。 (同上)
第22回日本ジュニア陸上競技選手権大会 男子400mハードル	優 勝 51 83	H18.7.8	今井 順也 (福岡大)	県岐阜商高卒	予選は、力みからハードルを引っ掛けるなど不調だったが、決勝では前半からスムーズに加速して優位に立った。10台目を越えたあたりで、競っていた選手を引き離し見事優勝した。 (島根県：出雲市浜山公園陸上競技場)
男子砲丸投	準優勝 16m56	H18.7.8	奥田 雄也 (福井工大)	岐南工高卒	他県の有望選手と互角の戦いを演じ、混戦の中16m56の好記録を投げて見事に準優勝の栄冠を得た。 (同上)

大会、競技会名 (主催者名)	成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
第22回日本ジュニア陸上競技 選手権大会 男子10種競技	準優勝 6551点	H18.7.8~9	林 雅紀 (中京大)	中津商高卒	高校時代は、走高跳・三段跳の選手だったが、中京大学進学後は地道に他種目の練習に取り組んだ2日間でマークした棒高跳の4m00や、やり投の50m01は特筆すべき好記録である。 (島根県：出雲市浜山公園陸上競技場)
女子ハンマー投	準優勝 51m40	H18.7.8	柘植 由衣 (大阪体育大)	中津商高卒	高校時代は円盤投と砲丸投でインターハイ出場経験がある。ハンマー投についても、大阪体育大学進学後数ヶ月で約5m自己ベストを更新した。 (同上)
高円宮杯2006年 女子ホッケー日本リーグ	準優勝	H18.7.9	ソニー一宮		ソニー一宮は、この日も南都銀行に5-1で快勝した。リーグ戦12勝1敗1分の勝ち点37で天理大と並んだが、得失点差により惜しくも準優勝となった。 (山梨県：山梨学院大学ホッケースタジアム)
第54回全日本実業団アーチェ リー大会 男子コンパウンドの部	優勝	H18.7.16	山田 彰 (トーカイ)		15日に25人が参加した予選を1位で通過し、16日の準決勝では、2度満点を取って波に乗った。決勝では、ライバルの塚本(デンソーウェーブ)に113:108で競り勝った。 (愛知県：県営岡崎総合運動公園)
アジアジュニア選手権 男子400mハードル	第3位 52.02	H18.7.17	今井 順也 (福岡大)	県岐阜商高卒	前日の予選を、53.59(1組1位)で余裕を持って通過した今井は、全力を尽くしたが自己記録に及ばず3位入賞にとどまった。(マカオ)

大会、競技会名 (主催者名)	成績	入賞年月日	入賞者名、団体	岐阜県との関係 (在住、出身)	大会、競技会の概要(意義)
レスリング・カナダカップ大会 フリースタイル 66kg級	第4位	H18.7.7~8	増田 和将 (中京学院大)	岐南工高卒	世界約20カ国からトップ選手の集まるフリースタイル種目の国際大会。カウンターからタックルをいかして勝ち上がり、好成績を挙げた。 (カナダ：オンタリオ州、グエルフ)
第8回全国高校女子重量挙げ選手権大会 63kg級	第3位	H18.7.23	苅谷 仁美 (可児高)		けがからの復帰直後であったが、落ち着いた試合運びで、自己ベストにあと6kgと迫るスナッチ63kg・ジャーク80kg・トータル143kgをマークした。 (兵庫県：明石市立産業文化交流センター)
第56回全日本実業団卓球選手権大会	優勝	H18.7.30	十六銀行		準決勝でNEC九州(熊本)を3-2で破り、決勝ではサンリツ(東京)と対戦した。2シングルス、1ダブルスともに勝ち、3-0のストレートで見事2年連続5度目の優勝を飾った。 (大分県：別府アリーナ)